

# 見出しタグを適切に使おう

## 見出しタグで重要性を示す

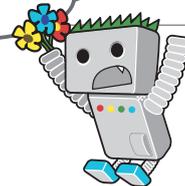
見出しタグ (heading tags、HTMLタグの<h1>やHTTP headersとは混同しないようにしてください) は、ユーザーにページの構成を示すために使用されます。もっとも重要であることを示す<h1>から順に、重要度のもっとも低いことを示す<h6>まで、6種類のサイズがあります (1)。

見出しタグは通常、このタグで囲まれたテキストを普通のテキストに比べて大きく表示させるので、ユーザーがその重要性に気付く視覚的なきっかけとなります。また、その下に続くコンテンツがどのようなものであるかを理解しやすくなります。複数の見出しタグのサイズを使い分けてコンテンツに階層構造を持たせると、ユーザーがページを読み進めやすくなります。

```
</head>
<body>
<h1>ガーベラのアレンジメント</h1>
<h2>幸せと元気を贈るボリュームたっぷりのアレンジ</h2>
<p>色とりどりのガーベラと、さわやかな春の花々をふんわりと集めました。見ているだけで心が華やぐボックスアレンジは、誕生日や記念日などのお祝いにとぴったり。メッセージカードをお付けして、大切な方へお届けします。</p>
```

①商品紹介を含むページでは、h1タグに商品名を入れ、h2タグに商品のトピックを書くことが一般的です

見出しタグはユーザーの目を引く重要な部分。使い方には気をつけて！



## ポイント

### コンテンツのポイントを考えよう

目次を作るように、そのページのコンテンツの何が主要なポイントなのか、コンテンツの重要度を考え、見出しタグを使うのに適切な場所を判断しましょう。

- ✓ ページ構成とは関係なくテキストを見出しタグで囲むことはしない
- ✓ <em>や<strong>の方が適切だと思われる箇所で見出しタグを使わない
- ✓ 見出しタグのサイズの使い分けを不規則にしない

### ページ全体を通して見出しタグは慎重に利用しよう

見出しタグは使用する意義がある場所で使いましょう。見出しタグがページ内に多すぎると、ユーザーにとってコンテンツが読みづらくなり、1つのトピックがどこで終わって次のトピックがどこから始まるのか、わかりにくくなります。

- ✓ ページ内で見出しタグを使いすぎない
- ✓ ページにあるすべての文章を見出しタグに入れたい
- ✓ 見出しタグを構造を示すためではなく、スタイルを整える目的で使わない

HTTP headers	<em>	<strong>	Robots Exclusion Standard	ワイルドカード
HTTP (HyperText Transfer Protocol) において、データ本体に先立って送信される各種データのこと	強調を意味するHTMLタグ。標準では斜体強調表示される	強い強調を意味するHTMLタグ。標準では太字で表示される	検索エンジンのボットなど、自動でクロールするユーザーエージェントに対して、サーバー上のアクセス可能な領域を制限するための仕様。Googlebotをはじめとした主要なボットが、この仕様に準拠している	ファイル名やディレクトリ名を指定するとき、任意の文字を意味するための特殊文字。「?」や「*」など